

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 廣瀬 允美

論 文 題 目

つわりと社会的支援が妊娠初期女性の生活の質に与える
影響に関する縦断的研究

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 入山 茂美

名古屋大学准教授 大島 千佳

名古屋大学教授 玉腰 浩司

論文審査の結果の要旨

妊娠初期女性の健康に関連した生活の質（Health Related Quality of Life : HRQOL）に対するつわりの影響に関しては、一定の見解が得られていない。その理由は、一回のみのデータ収集である研究が多く、一つの研究の中でも対象妊婦の妊娠週数が異なっていることが原因と考えられる。そこで、本研究では、縦断的につわりの程度と HRQOL の調査を行い、妊娠初期の女性の HRQOL に対するつわりとソーシャルサポートの影響を検討した。

初診時に、年齢、配偶者の有無、出産歴、学歴、職業、世帯収入等を含めた社会人口統計学的属性、悪心嘔吐と空嘔吐の尺度（Index of Nausea, Vomiting, and Retching : INVR）、ソーシャルサポートの多面的尺度（Multidimensional Scale of Perceived Social Support : MSPSS）、身体的サマリースコア（Physical component summary : PCS）および精神的サマリースコア（Mental component summary : MCS）を算出できる 12-Item Short-Form Health Survey (SF-12) の記入を対象者に依頼した。その後、妊娠 20 週までの間に初診時を含めて最大 3 回まで INVR と SF-12 の記入を再依頼した。分析は、対象者が質問に回答したそれぞれの妊娠週数を 3 つの期間（G1 期：妊娠 5-8 週、G2 期：妊娠 9-12 週、G3 期：妊娠 13-20 週）に分け、線形混合モデルを用いて行った。

解析対象者は 153 名（平均年齢 33.9 歳、初産 78 名・経産 75 名）であった。

本研究の新知見と意義は以下のとおりである。

1. INVR スコアによるつわりの程度に関しては、重度のつわりを有する女性の割合は G2 期で最高であったが（G1 期、G2 期、G3 期の順に 5.0%、10.1%、4.7%）、つわりを有さない女性の割合は妊娠期間とともに増加した（同順に 5.0%、16.8%、41.1%）。INVR の粗平均値は G2 期から G3 期の期間に急激に減少し、一方、PCS と MCS の値は共に G2 期から G3 期の期間に高くなった。

2. 交絡因子を調整し、縦断的データを線型混合モデルにて分析した結果、INVR スコアは PCS と有意な負の関連がみられたが、MSPSS は PCS との間に有意な関連は見られなかった。一方、MCS とは、互いに独立して INVR は有意な負の関連、MSPSS は有意な正の関連を示した。

以上より、つわりは HRQOL の低下に繋がるが、たとえつわりの程度が強くてもソーシャルサポートが精神的 QOL の改善に寄与する可能性が示唆された。本研究結果は、つわりを有する妊婦への対応に苦慮する周産期医療関係者や家族にとって、効果的な支援方法を考える際の礎となるものである。尚、本研究の主たる内容は、Journal of Psychosomatic Research（2019 JCR Impact factor: 2.860）に掲載されている。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するも

のと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	廣瀬 允美
試験担当者	主査 名古屋大学教授 入山 茂美 (印)	名古屋大学准教授 大島 千佳 (印)	名古屋大学教授 玉腰 浩司 (印)	
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠週数を3期に分けた理由とその意義について 2. つわりによる妊婦のQOL低下がその後の妊娠経過に及ぼす影響について 3. 精神的QOLとソーシャルサポートとの関連性の臨床的意義について 4. 線型混合モデルを使用することの利点と実用上の注意点について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				